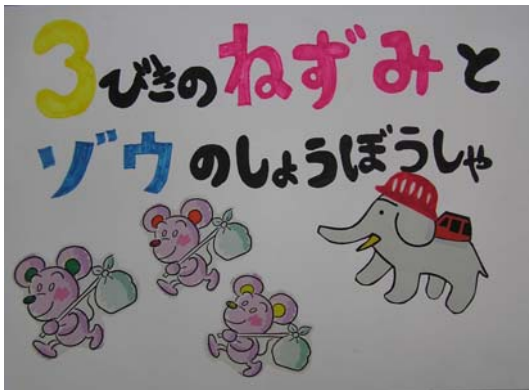




あるところに、3匹のねずみの兄弟が仲良く暮らしていました。ねずみの兄弟達にはお家がありません。3匹のねずみ達は、お家を建てる場所を探しに行きました。



初めに、たどり着いた場所は森の中でした。
 「ここは、気がたくさんあるからお家の材料になるね。
 それに、木登りやかくれんぼをして遊べるね」と、
 チュー助が言いました。すると、森の向こうから怖そうな
 ぶたの3兄弟が来ました。
 「おい、お前たち！ここで何をしているんだブー！」
 「ここにお家を建てようと思っているんだよ」と、チュー吉
 が言いました。
 「何を言ってるんだブー！。ここは俺たちの土地だ
 ブー。家を建てる事は許さないブー。
 早くどこかに行ってくれブー」と、とんタが言いました。



「次はどこに行こうか？」と相談しながら歩いていきました。
 近くに川がある丘の上にたどり着きました。
 そして、3匹はここにお家を建てることに決めました。

小松市立高等学校



チュー吉、チュー助が、森へお家の材料の木を取りに、
チュー太は、夜のご飯の材料を探しにいきました。



「やったねー！ やっと完成したよ！」
「じゃあ今からお祝いをしなくちゃね」と言ってみんなで
外で、夜ご飯の用意をしました。
「わーい！ すごーくおいしそうだよー」
みんながそろい、おいしいおいしい夜ご飯を食べました。
3匹は、しっかり火の後始末をしてぐっすりやすみました。



その夜、森であったぶたさんが、花火をしに丘のほうに
近づいてきました。
「花火どこでしょうかブー」
「・・・あっ！この丘の上でしたらどうブー？」
「水もあるから心配ないブー！」
そして、ぶたさん達は、ねずみさん達の作ったお家の近く
で、花火を始めました。
「あははははは！花火、楽しいブー」
「きれいだブー」
ぶたさんは、花火を振り回したり、飛ばしたりと、火遊びを
していました。すると、ぶたさんが振り回していた花火の火
が、ねずみさん達のお家にうつってしまいました。



「火がうつってしまったブー」
「火事になったブー！」
ぶたさん達は、火も消さず、怖くて逃げてしまいました。
ぐっすり寝ていた3匹のねずみが、火事に気づいて
びっくりして外に飛び出しました。

小松市立高等学校



「僕達のお家が燃えているよ！」
 「早く火を消さなきゃ！」
 「でも…何で燃えているの？」
 「それより、急いで火を消さなきゃ」
 「でも消火器がないよ」
 「川から水をくんでくればいいよ」
 「でも、バケツがないよ」
 3匹は困って泣いていました。



しばらくしていると、森の消防団が来ました。
 ぞうさんの消防団は一生懸命鼻で火を消してくれました。
 「わっせい、わっせい、頑張るぞ」と言っているうちに、
 火は全部消えました。でも、家は燃えてしまいました。
 ぞうさんは、
 「これはたぶん花火が原因だぞ。子供だけで花火などの
 火遊びは、してはいけないぞ」と、3匹のねずみ達に言
 いました。
 3匹のねずみは、
 「僕たちは花火なんてしていないよ」
 と、声をそろえて言いました。



そのころ、三匹のぶたさん達は木の陰から火事の様子を
 見ていました。
 「お兄ちゃん。僕達とっても悪いことしてしまったブウ」
 ぶたさんは「ようし、謝りにいこうブウ」と言って勇気をだし
 て、みんなで謝りに行くことにしました。そして、3匹の
 ねずみとぞうさんの消防団に
 「ごめんなさいブウ、僕達が花火をして火事をおこして
 しまったブウ」と、謝りました。
 3匹のねずみが「家が…」と落ち込んでいると、ぞうさん
 が、「でも、ケガをした人がいなくてよかったぞう。
 子供だけで火遊びしちゃ危ないぞう。消火器なども準備
 しないとイケないぞう」と、3匹のぶたと3匹のねずみに
 注意しました。みんな泣きながら反省しました。



「あ！いいことが思いついたぞう」
 「なあに」
 「ぶたさんのお家に、ねずみさんたちと一緒に住まわせて
 あげたらいいぞう」
 ぶたさんは
 「うーん、ぼくたちが悪いから」「一緒に住むブウ」
 「ありがとう、一緒に住まわせてもらうね」
 そうして、ぶたさんとねずみさんたちは、仲良く一緒に
 暮らしました。
 危ない火遊びもせず、火事になった時の準備もしっかり
 して、毎日仲良く楽しんで暮らしているようだ。